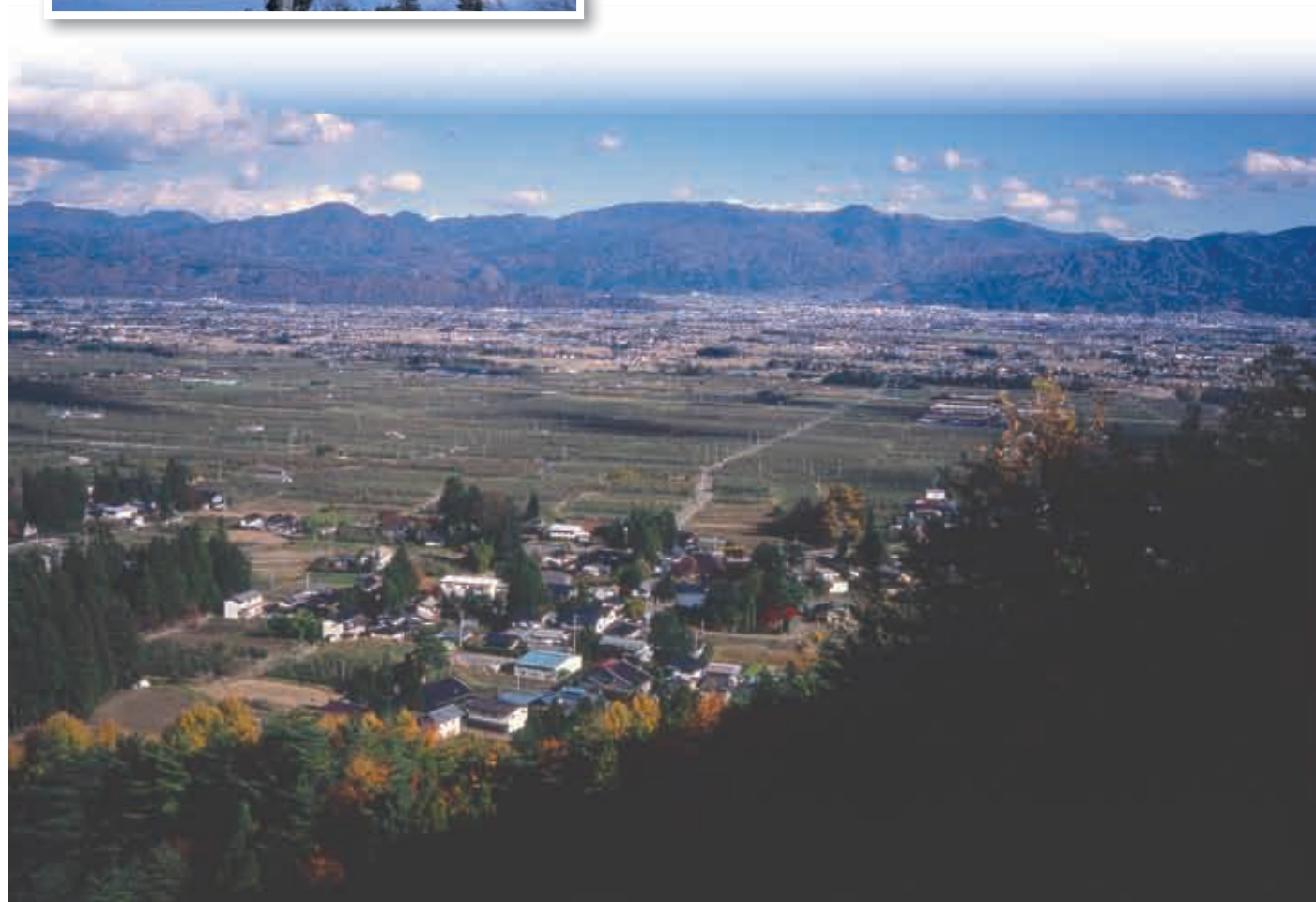


6 梓川

梓川（旧南安曇郡梓川村）は松本市の北西部に位置し、安曇野市三郷地域に隣接している。主に梓川左岸の河岸段丘によって形成され、河岸段丘の上段（上野原段丘）地域はリンゴを主体とした畑、段丘の下段地域には水田が広がっている。梓川には比較的規模の大きな屋敷林が点在し、安曇野市域と一体となった田園景観を形成している。



6-1 ^{しもつの}下角 庄屋邸の大きな屋敷林

松本市梓川梓



冬の北アルプスを背景にした中沢宅の屋敷林



正面玄関側から見た中沢宅の坪庭



中沢宅の上座敷から見た庭園

^{しもつの}下角はもと南安曇郡梓川村梓の集落であったが、平成17年（2005）に南安曇郡の7町村のうち梓川村は安曇村・奈川村とともに松本市に合併した。しかし、この梓川村の地域は歴史や民俗の面からも、また梓川左岸の農業用水の水系の面からも、明らかに安曇野に含まれる地域なのである。

集落の名は戦国時代の史料に見える^{つのかげ}角陰（角懸）郷に由来し、それが江戸時代に上角影村と下角影村に分かれた。明治に入って周辺の諸村と梓村となり、昭和戦後、^{やまと}隣の倭村と合併して梓川村を構成した。集落名は「影」を略して「下角」と称していた。

古代の住吉郷に属し、梓川扇状地の上野原段丘下に位置して、集落の中を^{りゅうだ}立田堰が流れ、開発の古い地域と考えられる。近世の下角影村は、松本藩領の上野組に属し、安政2年（1855）の書上帳によれば、家数58、人数433とある。

田園地帯に屋敷林が点在し、緑豊かな自然景観を有する地域であるが、近年、宅地分譲が進み、のどかな農村風景も変わりつつある。



北側から見た春の中沢宅

中沢宅の屋敷林

中沢宅は上野組の大庄屋を宝暦年間（1751～64）から、5代にわたって勤めた家である。屋号は「亀東」。敷地面積1,500坪の広大な宅地に、江戸中期の明和年間（1764～72）に梓村大久保から移築された間口10間の本棟造の母屋が建っている。

平成13年に大規模改修が施されたが、本棟造の屋敷の雰囲気はよく残されている。特に西側から正面玄関を眺めると、手入れの行き届いた坪庭と調和した、本棟造の母屋が雄大な姿を見せている。

また、上座敷からは、アカマツを中心とした美しい庭園を眺めることができる。歴史を感じる北側の塀や、スギとヒノキを中心とした屋敷林は、この平でも一、二を競うものといわれ、庭木の剪定は4人で7日を要し、地元の庭師によって定期的に行われている。

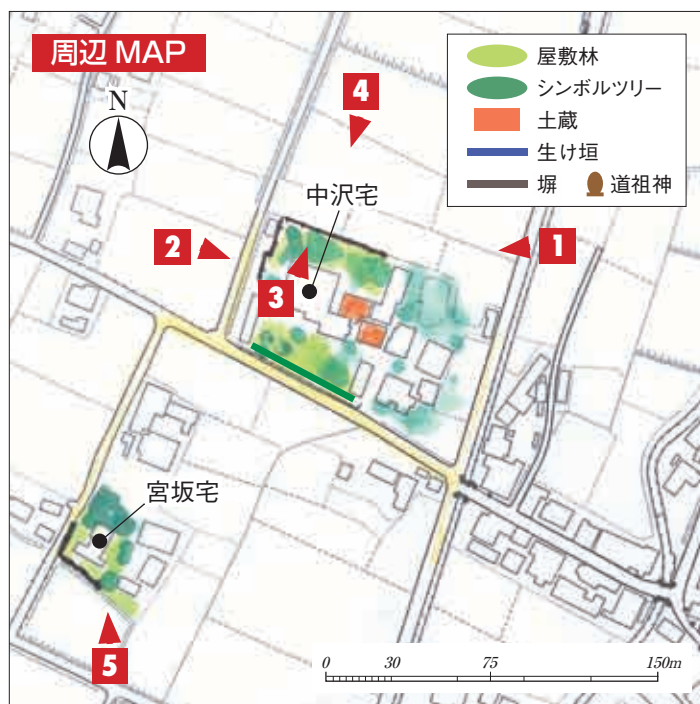
宮坂宅の屋敷林

初代松本藩主の石川数正の側室が、この宮坂家から迎えられたと伝えられており、その記念に植えたというアカマツが今も残っている。

また、このアカマツが覆い被さる「棟門」の瓦には、後の松本藩主・水野氏と同じ「丸に立沢湯」の家紋が見られる。松本城の改修時に宮坂家から瓦を寄進したことから、水野家の家紋をゆるされたという。



宮坂宅のアカマツ





東側から見た小沢宅の本棟造の母屋



旧大妻学校の碑



供出されたケヤキを惜しんで先代が建立した碑

大妻は鎌倉前期の承久の乱で、後鳥羽上皇方につき北条氏と戦った大妻太郎兼澄の領地とされる、開発の古い地域である。古代の住吉郷に属し、梓川左岸段丘上に位置し、温堰が地域内を流れる。中世の文献には「大妻北方」「大妻南方」と見え、近世には北大妻村と南大妻村に分かれた。安政2年(1855)の書上帳によれば、家数133、人数810とある。

明治期に周辺諸村と倭村となり、昭和戦後、隣の梓村と合併して梓川村を構成し、平成17年(2005)に松本市に合併した。

南大妻には、明治5年(1872)に大妻学校(懷徳館と称する)が開校された。校舎は、排仏毀釈で廃寺となった光入寺の庫裏が用いられ、明治7年に北大妻村へ移転するまで、倭村の教育の中心地でもあった。

また、大妻女子大学の初代学長である大妻コタカ女史(広島県出身)の夫の大妻良馬氏は、鎌倉初頭にこの地を支配した大妻氏の末裔であるといわれている。



玄関前のアカシヤの大木

小沢宅の屋敷林

屋敷全体が屋敷林に囲まれており、特にスギが多いのが特徴的である。小沢氏によると、杉は生育が早く手入れが要らないため、当時、風除けにはよく使われていたようである。

戦前、小沢宅には安曇野一といわれたケヤキがあったが、昭和19年の戦時中に供出され、先代は大変残念がったという。伐採されたケヤキを惜しんで、先代が玄関前に建立した碑からもそのケヤキの雄大さをうかがい知ることができる。

また、東側正面玄関前には、屋敷林には珍しいアカシヤの大木が2本植えられている。樹齢150年以上といわれるこの大木は、小沢邸の屋敷林のアクセントにもなっている

旧梓川村は、島々谷から梓川沿いに谷風が吹くため、小沢宅のように屋敷の南側へ屋敷林を植えた家が多いのが特徴である。

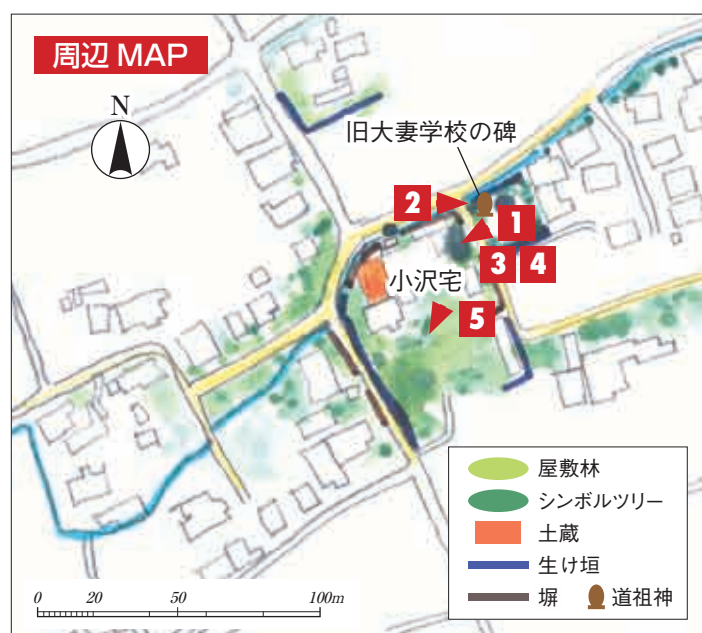
母屋は本棟造で、正面から見た外観は、南側・西側の屋敷林と調和のとれた景観をつくり出している。玄関横の式台は、当時の松本藩主がこの地を訪れた際、ここから上がって休んだといわれている。

また、屋敷内の庭園は、南側のスギやヒノキ、池を中心に植えられたサツキなどを引き込んで美しい眺めをつくりだしている。

母屋の座敷は、小沢氏と遠縁に当たる画家藤森桂谷が描いた襖絵や、松本藩で使われていた小道具など歴史を感じさせる調度品で飾られている。



上座敷から見た庭園



梓川の巨木

(1) モミ

指 定：長野県天然記念物

(昭37年9月27日指定)

所在地：松本市梓川梓北々条 大宮熱田神社境内

樹 形：目通り6.24m 樹高43m

地上20mまで直立した太い幹、それより上部には四方に10数本の太枝を張り出している。付近にはスギ・ヒノキなどの高木があるが、モミの幹はそれらを一際抜きん出て高くそびえ立ち、遠方から容易に識別することができる。

樹勢まだ旺盛で樹姿端麗、県下のモミの巨木であるといわれている。御神木として幹には注連縄を張り巡らし、根元の周囲に柵を設けて保護管理をしている。



(2) ツガ

指 定：松本市天然記念物

(昭41年11月1日旧梓川村指定)

所在地：松本市梓川梓中塔 二村同姓共有地

樹 形：目通り4.4m 樹高29m

ツガとしては県内でも有数な大樹である。地上10mから10数本の太い枝を張り出し、主幹は少し傾いている。

樹姿は端正で樹勢は旺盛、枝張りは西方・北方へ10数m、東方と南方へは10m内外で、まわりには主にスギ・ヒノキの高木が林立している。

『梓川村誌 自然・民俗編』より

